

病気療養しながら安心して 就学するためのケース会議を開催したい



▲事例解説動画

【学校】小学校 / 【きっかけ】保護者からの相談 / 【準備期間】約5か月

小児がんや心臓病などの小児慢性疾病を抱える子どもたちは、絶対数が少ないことから相談内容によっては、相談先や連携先が見つからないことや、ノウハウが蓄積しづらいという課題があります。今回の事例は小学校へ就学する子どもの保護者が、地域の就学前ソーシャルワーカーへの相談をきっかけに、医療や保健、教育、NPO を含めた多職種が参加して、学校生活で配慮が必要な点など就学前のケース会議を開催した事例を紹介します。

- ☑保護者の就学への不安や悩みを的確に把握して課題解決
- ☑就学前ソーシャルワーカーが中心となってケース会議を実施
- ☑医療や教育など多職種が集い、顔を合わせる形で開催

就学前SW
現状把握

保護者
やりとり

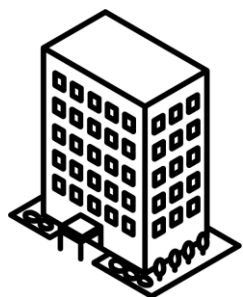
ケース会議
日程調整

ケース会議
開催

ポケットサポートへは保護者はもちろん、医療者、学校の先生方、教育委員会、保健所などから、様々な相談の電話やメールがあります。

小児がん治療中で春から小学校へ就学するお子さんの保護者から、就学後の生活がどのようなのか想像がつかず、同じ病気を持つ小学生の生活が知りたいということや、地域のソーシャルワーカーさんがヒアリングを通じて把握されていました。

ソーシャルワーカーさんも自治体として、どのようにして医療と教育の関係者が集って、情報共有や保護者の不安解消につなげたらよいか悩まれて、ポケットサポートに問合せいただきました。



まず始めに、岡山県教育庁特別支援教育課が開設している「長期療養児教育サポート相談窓口」の案内や、ポケットサポートのパンフレットや冊子などを送らせていただき、参考にさせていただきました。また、地域の教育委員会とも協働事業を実施した経緯や、連携事例もお伝えしました。

就学前ソーシャルワーカーさんが所属する地域の教育委員会とやり取りを続けながら、就学後の学習支援や同世代の仲間づくりなども含めて、サポートできる体制を作るためにも、保護者と直接の連絡調整もさせていただきました。

また、約半年後に就学が迫っていたため、今回は地元の学校との話し合いの中で教室配置など通学しやすい合理的配慮や、関係者との顔合わせが早期に必要なと認識しました。そのため、早期にケース会議を実施し、通学することになる地元の学校の先生方との面談を設定する方向で話を進めました。

学校、教育委員会、保健所、病院、保護者など、様々な関係機関の多職種と日程調整や情報共有をソーシャルワーカーが中心となって進めました。

保護者との話し合いの中では、同じように治療しながら就学する経験のあるスタッフが、傾聴や共感することでご安心いただき、就学予定の学校との打ち合わせ、保健所や教育委員会などとの情報共有の可否に関するご提案をさせていただきました。

保護者とメールでのやりとりを続け、「現在の病状(体調)について」「進学について不安な事」「4月以降の治療スケジュール」「学校、教育委員会、保健所への要望」などについてヒアリングを行い、関係者へ情報の共有を行う旨の許可をいただきました。



ポケットサポートがこれまで蓄積してきた復学調整会議のノウハウを活かしながら、中心となる就学前ソーシャルワーカーの方と、支援に関する会議に出席した方が良いと考えられる方々をピックアップし、学校、保健所、教育委員会へお声掛けいただくようにしていただきました。

日程調整が行なわれてケース会議の日程が決まったところで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、約2か月後に延期されましたが、関係者全員が顔を合わせて集まる形式で、お子さんの就学に関するケース会議が、開催されることとなりました。

今回の事例はポケットサポートが病弱児支援のNPOとして地域支援ネットワークを構築していたこと、過去の相談事例と重なっていたことで、地域の教育委員会や学校、保護者にご安心いただき、就学前のケース会議の提案から実施に至ったのではないかと考えています。この児童が笑顔で学校生活を送っている姿をこれからも見守っていきたいと思います。そして、ソーシャルワーカーや地域支援団体の皆様とも協力体制を構築しながら、ひとり一人の子どもたちに寄り添った支援を続けていきたいと思います。

ケース会議にはご両親とご本人、校長先生、担任教諭、学年主任、養護教諭、保健師、就学前ソーシャルワーカー、そしてポケットサポートのスタッフが参加しました。

事前に学校側から主治医へ学校生活に関する質問がなされていて、その回答として全身状態は良好で、リハビリが必要になるが基本的には通常の対応で問題がないことが共有されました。

その後、会議ではご両親から本人の病状説明と、日常のケアについて、活動上の留意点として、生活時間、運動制限、食事制限、服薬のタイミング、そして調子が悪くなったときにどんな様子になるか等が伝えられました。

学校として、調子が悪くなった時にすべき対応、その他、気を付けておいた方がよい事などが話されました。主治医からの事前質問の回答も併せた形で、話し合いは進んでいきました。

ポケットサポートからも就学に関する共有シートの情報提供や、オンライン授業についてのサポートができること、またその後も気になることがあればいつでも相談や学習や復学支援などが行なえることなどをお伝えしました。

年度明けには無事就学ができたこと、学校生活が送れていることがポケットサポートへも伝えられています。その後、このお子さん、ご家族からの連絡はありませんが、いつでもご相談できる関係性を継続するために、団体の交流イベントの案内などを送らせていただいています。

